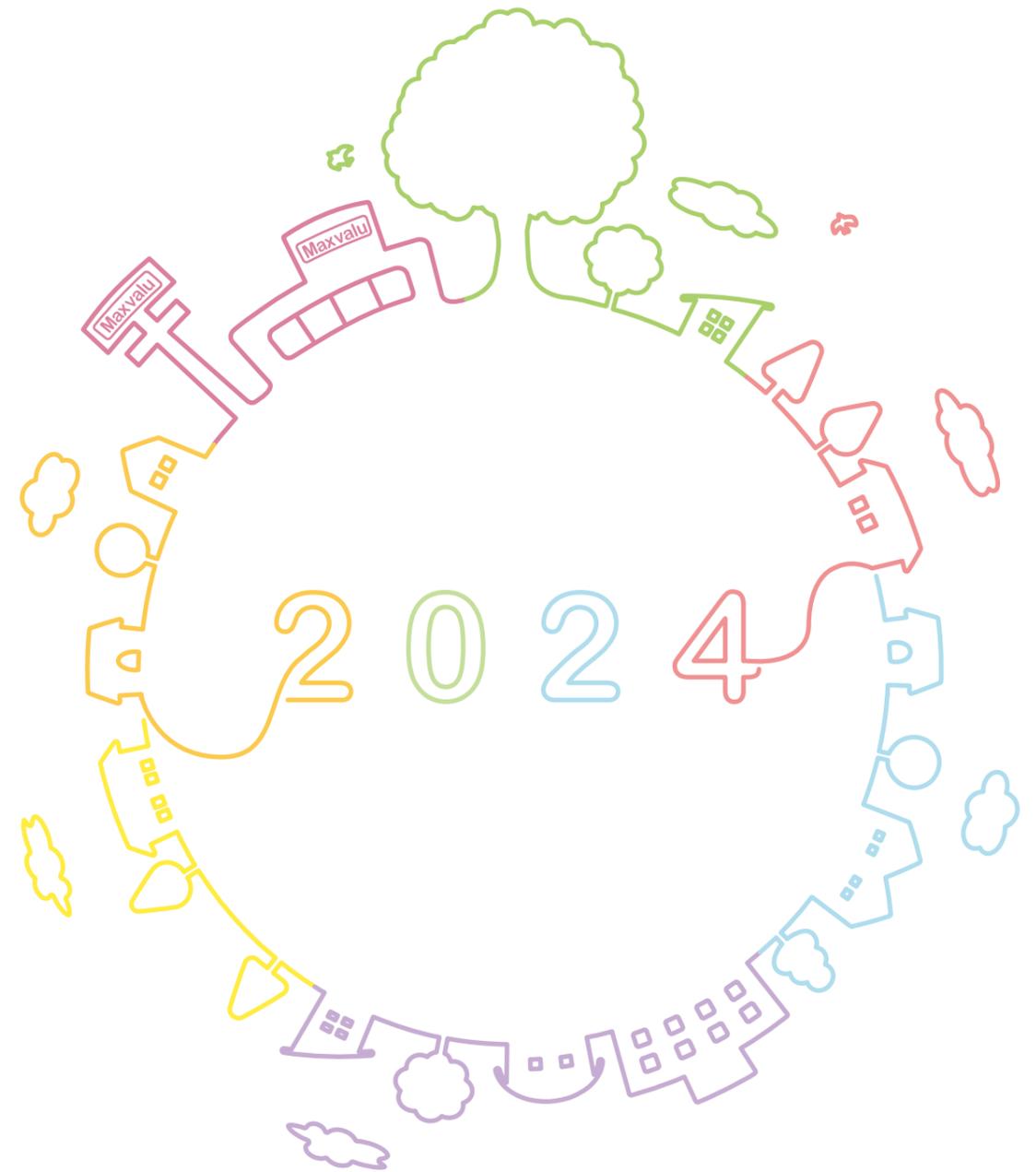




マックスバリュ東海株式会社
環境・社会貢献活動のご報告



Maxvalu Tokai Report



マックスバリュ東海株式会社
経営企画本部
戦略部 広報・IR・社会貢献グループ
〒435-0042 静岡県浜松市中央区篠ヶ瀬町1295番地1



2024年7月 発行

マックスバリュ東海レポート
2023.03-2024.02

想いをつなぎ、一途に「かたち」に。

マックスバリュ東海は、「笑顔」と「元気」、「幸せ」あふれる地域を共創します。

私たちは、2030年、そしてその先の2050年を見据えた価値創造ストーリーを策定しました。
ここには、これまでも、これからもずっと、地域とつながり、地域とともにあゆみ、
事業を通じて豊かで幸せな暮らしの実現と地域づくりに貢献し続ける存在でありたい、という想いを込めました。
この想いを形にするために、企業理念、行動指針に基づき、ブランドメッセージである、
『想いを形に、「おいしい」でつながる。』を体現し続けます。

Environmental Policy

環境方針

マックスバリュ東海株式会社は、「何よりもお客さまの利益を優先しよう。」という企業理念のもと、小売業として安全で安心な商品・サービスの提供と店舗づくりを行い、お客さまと同じ地域社会の一員として、地球環境への負荷軽減と保全に努めます。

- 01 当社の営業活動に関わる環境影響を常に意識し、環境汚染のリスクの軽減を推進するとともに、環境パフォーマンスの向上と環境マネジメントシステムの継続的な改善とその定期的見直しを図ります。
- 02 生態系保護を含む自然環境保全に努めます。
- 03 環境保全に関する法令の遵守(コンプライアンス)を約束し、受け入れを決めた協定その他の要求事項を遵守します。
- 04 以下の項目を重点管理テーマとして継続的改善(システム化)を図ります。
[1] 環境にやさしい商品・サービスの提供、店舗づくりを進めます。
[2] 営業活動における省エネルギー・省資源を推進します。
[3] 営業活動において予測される排出物に対し、発生抑制(リデュース)・再使用(リユース)・再資源化(リサイクル)を推進し、廃棄物の削減に努めます。
[4] 地球温暖化防止のための、CO₂の排出削減および「植樹活動」に「地域のお客さま」とともに取り組みます。
- 05 この方針は当社で働く従業員、および当社の事業活動に関わる全ての人に周知され、一人ひとりが自らの役割を自覚し行動できるよう努めます。
- 06 この環境方針は社外に対しても広く公開・開示いたします。

2022年5月24日改定 マックスバリュ東海株式会社

Contents

- | | | | | | |
|------|----------------------------|------|--------------------------------|------|-----------------------------|
| P.03 | マックスバリュ東海が
目指すべき目標 | P.05 | 【特別企画】座談会 | P.09 | 「笑顔」と「元気」、「幸せ」
あふれる地域の共創 |
| P.13 | 「もったいないゼロ社会」の
実現 | P.17 | 地域の「おいしい」「ありがとう」
創造への挑戦 | P.23 | 私に「うれしい」店づくり |
| P.27 | 「やりたい」「ありたい」を
応援する組織づくり | P.31 | 地域や人との「つながり」を広げ深める
デジタルとの共存 | P.34 | データ集 |

ありがとうの総量 地域に生まれた



マックスバリュ東海は、
地域とのつながりを通じて、
「ありがとう」を生みだし続けます。

私たちは、事業を通じた日々の
関わりあいの中におけるつながりの一つひとつから
「ありがとう」が生まれるものと考えます。
そして、この「ありがとう」の総量の追求により、
「笑顔」と「元気」、「幸せ」あふれる地域の共創に貢献し続けます。



私たちの Materiality

事業を通じて解決したい社会・環境の重要課題(マテリアリティ)を特定しました。
これは、経営、従業員が自分の想いを伝えあい、わかちあい、
「持続可能な地域(社会)の実現」のために何をすべきかを考え抜いて導き出したものです。

Materiality

01

「笑顔」と「元気」、
「幸せ」あふれる
地域の共創

Materiality

02

「もったいない」、
「ゼロ社会」
の実現

Materiality

03

地域の「おいしい」、
「ありがとう」
創造への挑戦

Materiality

04

私に
「うれしい」
店づくり

Materiality

05

「やりたい」
「ありたい」を応援する
組織づくり

Materiality

06

地域や人との
「つながり」を広げ深める
デジタルとの共存

私たちマックスバリュ東海は、これらの解決を通じて、

「持続可能な地域(社会)の実現」に貢献し続けます。

SPECIAL TALK

毎日の食事を楽しく
「ちゃんごはん」

社長

現場のことなら私におまかせ。ぜひ社長にも聞いていただきたいです。

新鮮な食材が揃いました。みなさん張り切って作りましょう!

社長、作りながら考えませんか？

地球温暖化や生物多様性、エネルギー問題、人口減少、少子高齢化など、持続可能な社会の実現に向けて、解決すべき課題がたくさんあります。

マックスバリュ東海では、地域密着型の企業だからこそできるサステナビリティへの取り組みを多彩に展開しています。そこで、地元の食材を使って社長と一緒に料理を作りながら「マックスバリュ東海と地域社会」について語り合いました。

取材場所
[マックスバリュ浜松助信店]
ちゃんごはんSTUDIO



マックスバリュ東海の売場に隣接するキッチンスタジオ。旬の食材やおすすめ商品をおいしく・健康に食べていただくための料理教室やセミナーを開催しています。



[社長]
つくりみち まさあき
作道 政昭

2022年に52歳で社長に就任。料理はたまに作る程度だが、トマトやキュウリなど採れたて野菜の香りが好き。



[コミュニティ社員]
あおき かつみ
青木 勝美

勤続12年。マックスバリュ福田(ふくて)店の後方総務担当として常に店舗全体に気を配りつつ、お客さまへの細やかな配慮も欠かさない。趣味は宝塚観劇。



[正社員]
ふじかわ はるか
藤川 晴賀

入社6年目。三重・愛知の店舗で農産部門を経験し、2024年3月から本社の人事教育部に配属され、社員教育を担当。三重県松阪市出身。



[コミュニティ社員]
いとう さちこ
伊藤 幸子

マックスバリュ富士宮宮原店の副店長。勤続18年のベテランで、スタッフのみんなから慕われる存在。料理の腕ももちろん自信あり。



[正社員]
わかつき しゅんすけ
若月 俊輔

入社3年目。2024年3月オープンしたマックスバリュ浜松新橋店を農産部門のチーフを務める。現在一人暮らしで自炊も毎日。ナス料理が得意。



参加者全員で本日のお昼ご飯づくりに挑戦。作道社長が慣れない手つきで野菜を切っていく姿をみんなが見守ります。

社長、切り方おかしなじゃありませんか？



地域との接点を増やすために普段から努力していることは？

- 作道:**今日は、静岡県内の店舗や本社から4人の方々に集ってもらいました。全員初顔合わせにもかかわらず、すぐに打ち解けて、こんなに楽しく料理を作れるとは思いませんでした。
- 伊藤:**普段は雲の上のような存在の作道社長が、第一声から笑顔で話しかけてくださったので、一気にファンになりましたよ(笑)。
- 青木:**誰にでも分け隔てなく気さくに接して下さって、本当にナイスガイですね。帰ったら職場のみんなに伝えないと(笑)。
- 作道:**いやあ、嬉しいな。せっかくの機会なので、今日は皆さんといろんな話をしたいです。ご存じのように、マックスバリュ東海は地域との共生を最も重視しています。地域のことをよく知っているのは、そこで実際に生活し、働いている各店舗の社員やコミュニティ社員*の皆さんなので、これから皆さんの意見を積極的に取り入れていきたいです。まず、皆さんの地域に対する想いや考えを聞かせてください。*マックスバリュ東海におけるパートタイマーの呼称
- 伊藤:**私はマックスバリュ富士宮宮原店(静岡県富士宮市)の副店長を務めています。富士宮市には最近キャンプ場が増えているんですよ。だから、キャンプ用の食材やお土産の販売に力を入れています。でも、ただ販売するだけでなく、富士宮市の魅力を発信していくことも私たちの役割だと思うので、市の観光課に協力してもらい、観光用のパンフレットや宣伝ボードを使って観光PRを行っています。
- 若月:**僕はこれまでに3カ所の店舗に配属されましたが、地域ごとに食文化や習慣が大きく異なることに驚きました。季節の行事はそれが特に顕著で、年末や年始のお飾りにしても地域によって全然違いますよね。ですから、各地域の特性を十分に把握したうえで、地域のニーズにあった商品を提供する必要があると実感しました。
- 藤川:**例えばキャベツひとつをとっても、核家族や一人暮らしの多い市街地では袋入りの刻んだキャベツがよく売れるのに対し、郊外ではキャベツが玉でよく売れる…というように、地域によって売れ筋商品の形態も異なりますよね。私は本社の人事教育部に配属されてからまだ日が浅いですが、今後は教育担当として各店舗のお客さまの傾向を聞き、それに適したアプローチをアドバイスするという形で、皆さん一人ひとりに寄り添った教育をしていこうと考えています。
- 青木:**私はマックスバリュ福田(静岡県磐田市)で管理を担当していますが、当店ではお客さまの高齢化が進み、一人暮らしの方も多いため、シニア世代を対象としたサービスに力を入れています。

ます。毎月1回程度、コミュニティ委員会の主催で「輪投げ大会」を開催しているんですが、それが楽しみで毎週末来店される方々がたくさんいて好評です。

作道:それはいい取り組みですね! シニア世代の方々が笑顔になれますよね。私たちの仕事は、地域のお客さまとの接点をどれだけ増やせるかが重要です。会話や提案、情報発信、イベントなどを通じてお客さまとの新たな接点が生まれるのは、店舗だけでなく地域にとっても有益なことですからね。今の青木さんの話に出た「コミュニティ委員会」では、コミュニティ社員さんたちが各店舗の運営活動に取り組んでいますが、福田店に限らず他の店舗でも活動が活発で、ぜひとも水平展開していきたい企画がたくさんあります。

藤川:私が以前いた店舗では、社員のフォローが必要なときはコミュニティ社員さんと一緒になって委員会活動に取り組む形をとっていたんです。例えば、素材へのこだわりをテーマに掲げた活動では、夏場は野菜や果物が傷みややすいので、農産コーナーを中心に鮮度を保つ対策を考えることになりました。それで、農産チームとして何ができるかを検討し、クリーンタイムと呼ばれる鮮度チェックの時間帯以外にも、手の空いた時間に売場の品質管理を行った結果、鮮度がどんどん上がり、委員会活動に手応えを感じました。

作道:「鮮度」という点では、地域ならではの商品販売する「じもの」の取り組みも重要です。現在、地域の生産者さまと地域の食品メーカーさま、そして私たちが三位一体となって取り組んでいますが、地域に感謝しながら、じもの商品を育てていくことで、地域の活性化に少しでも貢献できるというですね。

若月:じもの野菜は今朝採れたものが売場に並ぶので、鮮度が全然違いますよね。お客さまにも喜んでいただけるし、生産者さまや私たちにとっても野菜がたくさん売れて、まさにWin-Winの関係です。生産者さまとつながると、普段は得られない情報も得られますしね。

作道:若月さんは2024年3月にオープンしたマックスバリュ浜松新橋店の農産部門のチーフですが、新店舗では地域の生産者さまと直接話せるコーナーを設けていますよね。

若月:そうですね。売場と農場をカメラでつなぎ、お客さまが生産農家さんと直接会話できるコーナーを、火曜日と土曜日に1日2回、30分間程度設けています。生産農家さまならではのおい



しい食べ方やレシピを教わるなど、まさに「生産者さまの顔が見える」取り組みとなっています。



作道:当社では、コミュニティ委員会やじもの以外にも、多彩な取り組みを通じて地域との関係強化に努めています。お客さまにおいしい食卓を提供し、健康づくりに貢献する「ちゃんとごはん」もそのひとつ。今日の座談会の舞台となった「ちゃんとごはんSTUDIO」をはじめ、惣菜やレシピ紹介など、さまざまな形でお客さまに旬の食材をおいしく健康的に食べていただけるよう工夫しています。



伊藤:「ちゃんとごはん」には社内で認定試験があって、私はその中級を取得したんですが、講習の中でお客さまに食材やメニューのアドバイスができる知識を学べたので、お客さまとの会話や、調理見本づくりなどに役立っています。「野菜が高い時期だからこそ無駄に使いたくない」というお客さまに、栄養が効率よく摂れる調理方法をご提案したところ、すごく興味を持っていただけました。



作道:講習での学びがお客さまとの関係づくりにしっかりと活かされていますね。当社ではこうした取り組みのほか、地域ゆかりの商品の売上の一部を地域に還元する「ありがとうキャンペーン」や、「移動スーパー」にも力を注いできました。「ありがとうキャンペーン」は静岡県の「富士山ありがとう」から始まって、愛知県、三重県へと広がっています。これからの地域のあり方を考えると、地場産品を地元で消費し、行政と連携しながら地域に還元していくという「四位一体のサイクル」を作っていく必要があると考えますので、皆さんも胸を張ってこの活動に取り組んでもらいたいです。また、移動スーパーについては、中山間地域だけでなく市街地にも買物にご不便を感じている方々がたくさんいるため、町内会や自治会と連携して、移動スーパーが必要とされている地域を特定し、出向くようにしています。将来的には買物支援だけでなく、見守りサービスも展開し、地域にいつでも寄り添っていきたくと思っています。

どうしたらもっと地域とつながれるだろう？



作道:ここで皆さんにお聞きしたいのですが、これから地域とのつながりをより深めていくには、どんなことをすべきだと思いますか。



若月:僕は、地域の文化を発信することも各店舗の大切な役割だと思います。僕が前にいたマックスバリュ島田阿知ヶ谷店では、地元名物の島田汁をイベントで提供したことがあって、そのとき僕も初めて食べたのですが、すごくおいしかったですよ。僕たちのような若い世代は、地域の人と接することがあまりないので、地元の名物を知る機会も少ないと思うんです。だから、スーパーで買物をするついでに地元の食文化や魅力に触れることができれば、この街に定住したいと思う人が増えると思います。



藤川:さっき若月さんと話していたんですが、当社にはシニア世代向けのサービスはいろいろあるけれど、若い世代のサービスは少ないと思うんです。18歳になればクレジットカードが作れるようになるので、若い世代が対象のイベントを企画してもいいんじゃないかな。



青木:福田店では、若い世代よりさらに年下のお子さま向けに「キッズカード」を配布しているんですよ。お買物ごとにスタンプを押して、6個貯まるとお菓子をプレゼントするという企画なんです。おかげさまでお子さま連れのお客さまが増えたように思います。



作道:微笑ましくていいですね。スーパーマーケットは多様な世代や嗜好のお客さまが集う場所ですから、個々のニーズに



あったサービスを提供していく必要がありますね。そのために最近、各店舗で頑張ってもらっているのが「iAEON会員」の募集活動です。「iAEON会員」になっていただければ、お買物データから個々のお客さまに最適な商品やサービスをご提案できますからね。



青木:それに、会員になるといろんな特典がついてくるので、お客さまにとってはかなりお得ですよ。特に若い世代の方はデジタルが得意だから、藤川さんや若月さんが提案された若い世代向けの取り組みも、iAEON会員を中心に進めていくといいかもしれませんね。



作道:ただし、デジタル化を進めるときに注意すべきなのが、シニア世代やデジタルが苦手なお客さまへの配慮です。ですから、店頭での対面のコミュニケーションもこれまで通り大切にしながら、個々のお客さまに寄り添ったサービスを提供していく必要がありますね。

これからどんなお店にしていきたいですか？



伊藤:先程、青木さんがお客さまの高齢化について話されましたが、富士宮宮原店でも同様に高齢化が進んでいます。そのため富士宮宮原店では、富士宮市の協力のもと、店頭で健康チェックを実施したことがあるんですよ。その結果に基づいて「ちゃんとごはん」の中からおすすめレシピをご紹介したんですが、お客さまから好反響でした。



作道:いやあ、それは素晴らしいですね。お客さまの志向が多様化する中で、「ウェルビーイング」は誰にでも共通するテーマであり、地



福岡県を代表する郷土料理「がめ煮」に挑戦。鶏肉やごぼう、しいたけなどの素材を煮込んで旨みを引き出すのが調理の秘訣。



地場野菜と味のS.M.は、簡単に完成！



いろんな意見が聞けてとても参考になりました！最初は緊張していましたが、和気あいあいとした雰囲気です。社長や参加者の意見もいろいろ聞けたので、これからの店舗づくりの参考にしていきたいです。



座談会を終えて



初めてでしたが有意義な話し合いができました！みなさんと語り合う機会は今回が初めてでしたが、地域に対する想いを共有でき、大変感激しました。各店を巡回した際には気さくに声をかけてもらいたいです。

笑顔と健康、幸せを提供することが私たちの使命



域のニーズに合わせて、体や心に良いものや、楽しいことをしっかりとご提供していくことが私たちの使命だと思います。皆さんはそのためにマックスバリュをどんなお店にしていきたいですか？



伊藤:私は、地域にとってなくてはならないお店にしていきたいです。数あるお店の中から当店を選んで来店してくださったお客さまを心からおもてなしたいし、お客さまから「この店だから来るんだよ」「あなたがいるから来るんだよ」と言っていたのが理想です。



青木:私も伊藤さんと同じ気持ちです。実は先日、それを如実に感じた出来事があったんです。嵐の日に店舗が停電してしまい、しばらく店舗を開けられなかったんですが、復旧するまでずっとお客さまが外で待っていてくださったんですよ。地域に必要とされている店であることを肌で感じて、胸が熱くなりました。



藤川:実は、私は大学時代を富山県で過ごしたのですが、富山県にはマックスバリュがありません。帰省して最寄りのマックスバリュに買物に行ったとき、「故郷に帰ってきたんだ」と実感できたんです。その理由は、マックスバリュは当時から「じもの」に特化していたからだと思います。「富山の『氷見の寒ブリ』もおいしいけど、やっぱり『尾鷲のブリ』だな」とか、「私が求めていたのはこの味だ」と感じる気持ちってすごく大切だと思うし、私にとってはそれが当社を志望した理由のひとつです。スーパーマーケットは、進学や単身赴任で他の地域に出た人たちが戻ってきたくなる動機付けの場所でもあると思うので、今後は安心して戻ってこられるコミュニティの場としての役割も担ってほしいなと思います。



作道:皆さん、貴重なご意見どうもありがとうございます。スーパーマーケット事業は、地域と共存しなければ存続できません。だからこそ、お客さまが買物されて、楽しんで、幸せになってもらえる場所を地域と一緒に作りあげていく必要があります。これからも地域に愛される企業であり続けられるよう、一緒に頑張りましょう！



地域密着の店舗づくり。

「笑顔」と「元気」、
「幸せ」あふれる
地域の共創

暮らしの中に「笑顔」があふれ、心身ともに健康で、地域とのつながりの中で幸せがあふれる、そんな地域の元気を作り続けます。



コミュニティ委員会メンバー



コミュニティ委員会

コミュニティ社員は、まさに地域で生活している人であり、お客さまの一番身近な存在です。一人ひとりのやりがいと強い思いが地域密着の店舗づくりになり、その活躍は当社の大きな強みでもあります。コミュニティ委員会の始まりから20年。毎年、コミュニティリーダーによる各店舗での活動を発表する場を設け、お互い参考にしながら切磋琢磨しています。このコミュニティ社員によるお客さま視点の売場づくり、店舗づくりの継続的な活動は、当社を支える礎となっています。これからも地域のお客さまにとって「毎日の暮らしに、頼りになる存在」となるよう、活動を推進していきます。



コミュニティリーダーが集まり、情報交換するコミュニティ委員会。熱海店では「じもの」として、地元の老舗パン屋の味を引き継いだ「ほていやの蒸しパン」を販売している事例を共有した。

地域活性化の
活ながるに
つなげる
やりがいを

Voic e

営業コーディネーター部 店舗サポートグループマネージャー やまだ ふみか **山田 文香**

コミュニティ委員会の始まりはマックスバリュ富士八幡町店（静岡県富士市）です。2000年、店舗の存続をかけて、競争店対策を迫られました。そこでコミュニティ社員を中心に周辺地域の行事・歳事に合わせて、地元で食べられている食材などを販売する、という地域密着型の取り組みを実施したのです。これが売上を大きく伸ばすことになり、「コミュニティ委員会」が発足。少しずつ他の店舗にも拡散され、2004年には全店に展開する動きとなりました。コミュニティ委員会は、地域のお客さまとつながっていききたいという気持ちを共有し、従業員やその家族も含めた「自分たちの地域」の活性化につながるというやりがいを持って働く土台となっています。



事例紹介

コミュニティ委員会の提案から実現した事例



1 マックスバリュ函南店（静岡県田方郡函南町）
地域のお祭りへ積極的に参加
マックスバリュ函南店では、マックスバリュ函南間宮店、マックスバリュ函南大土肥店と合同で、「かなみ猫おどり」、「いずはこね ふれあいフェスタ2023」などの地域のお祭りに参加しました。パンや飲料、農産物などを販売し、お客さまとの交流を楽しみました。



2 マックスバリュ桑名新西方面店（三重県桑名市）
地元企業とのコラボ
マックスバリュ桑名新西方面店では、納豆レシピを募集し、お客さまの投票で優勝レシピを決定！お客さまを巻き込んで、地元企業とお客さま、店舗がつながり、楽しみながら商品PRができました。



3 マックスバリュ島田阿知ヶ谷店（静岡県島田市）
社員でiAeonを猛勉強
マックスバリュ島田阿知ヶ谷店では、iAeonの特設カウンターを設置。ダウンロードやお気に入り登録の方法をお手伝いしたり、「お手伝いします!」のタスキを付けて、積極的にお客さまの不安にお応えし、登録者数も大幅にアップしました。

食を通じて地域を応援。

イオン 幸せの黄色いレシート キャンペーン

毎月11日の「イオン・デー」に「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」を実施しています。お客さまがレジ精算時に受け取った黄色いレシートを、地域のボランティア団体名が書かれた店内備え付けのBOXに投函していただくことで、レシート合計金額の1%相当を団体活動に必要な物品に換え、各団体に寄贈する取り組みです。サポートを必要としているボランティア団体と、「応援したい」というお客さまの気持ちを結び取り組みとして、多くのお客さまにご参加いただいています。

助成
金額

イオン
幸せの黄色い
レシート
キャンペーン

2023年度
17,806,900円

●1,561団体 ●215店舗

2022年
16,980,500円

●1,531団体
●213店舗

2021年
17,905,100円

●1,592団体
●211店舗



イオン ハートフル・ボランティア 中河原海岸清掃 (三重県津市)

イオンでは、地域の社会課題の解決に向け、ボランティア活動を推進する「イオン ハートフル・ボランティア」の取り組みを進めています。2023年11月、前年に続き「ウミガメネットワーク三重」さまご協力のもと、ウミガメの産卵が確認されている中河原海岸の清掃を行いました。イオン従業員約100人が参加し、ペットボトルなどのプラスチックごみや金属、ガラスなど合計590kgを回収。生物多様性の保全と、持続可能な社会の実現を目指し取り組みを継続していきます。



ありがとうキャンペーン

地域活性化推進の取り組みのひとつとして、「ありがとうキャンペーン」と題し、各地域にゆかりのある商品の販売を通じて、対象商品の売上の一部を各県へ贈呈しています。静岡県で実施している「富士山ありがとう」をはじめ、愛知県・三重県にも「ありがとうキャンペーン」の輪が広がっています。



ありがとうキャンペーン

2023年度

9,731,776円

●静岡県・愛知県・三重県の3県合計

寄付金額の詳細はP34へ▶

寄付金活用事例

静岡



(富士山の環境保全活動)

- 富士山麓に不法投棄された廃棄物の撤去
- 外来植物侵入防止のための種子除去マットを設置

愛知



(環境学習活動)

- 子どもたちが自然や環境の大切さを学ぶため、フィールドワークを行う

三重

食生活の改善や運動を通して、県民の健康づくりを支援する「三重県とこわか健康マイレージ事業」の啓発活動

- 動画作成とSNS広告
- 各市町のバナー作成
- 特典協力店拡大に向けた営業活動



ご当地WAON

ご当地WAONは、ご利用金額の0.1%を自治体などに寄付させていただき、地域の活性化にお役にいただけるWAONカードです。毎日のお買物が地域の元気につながる「ご当地WAON」のご利用を推進しています。

ご当地WAON

2023年度

21,561,294円

●ご当地WAON 9種合計

寄付金額の詳細はP34へ▶

ご当地WAON



熊野古道伊勢路WAON



熊野古道の伊勢神宮から熊野三山までのルート「伊勢路」を後世に残すための保全活動に活用させていただいています。

出世城浜松城WAON



浜松市内の小学校や中学校で行う出前講座「森はみんなの宝物」に活用。林業を生業とする団体が実際にチェーンソーを使用した模擬伐採などを行い、森林・林業を間近に体験し、親しんでもらう機会を創出しました。



「もったいない ゼロ社会」の 実現

「もったいない」をなくすため、ごみの量を減らすだけでなく、繰り返し使う、再生利用するなど、持続可能な循環型社会の実現に貢献します。

余すことのない 食材・食品・資源の活用。

食品廃棄物の削減

社会問題化したフードロスへの取り組み

食品廃棄物の削減は小売業にとって重要な課題です。2025年までに食品廃棄物を半減するという当社の目標実現に向けてさまざまな角度から取り組みを実施しています。具体的には店舗の廃棄率進捗管理や、発注精度の向上、ライフスタイルの変化に合わせた販売容量の見直し、食材を無駄なく使うレシピのご提案などです。



ガス置換包装機導入

長泉工場(静岡県駿東郡長泉町)でガス置換包装機を導入いたしました。ガス置換包装機は、残存酸素1%以下の高精度なMAP包装で、パッケージの中の空気をその食品の保存に適した精製された食品ガスに置換し、包装する方法です。食品の酸化や腐敗を抑制し、おいしさ追求や、フードロスの削減に寄与します。

店頭リサイクル

リサイクル活動で実現する循環型社会

限りある貴重な資源を再利用できるよう、当社でもさまざまな形でリサイクル活動に取り組んでいます。各店舗の店頭では、食品トレー・紙パック・アルミ缶・ペットボトルの回収を実施し、回収した食品トレーやペットボトルは再商品化するなど、循環型社会の構築に向けた取り組みを継続的に進めています。



詳細はP34へ▶

世界にひとつだけのマイバッグ作り

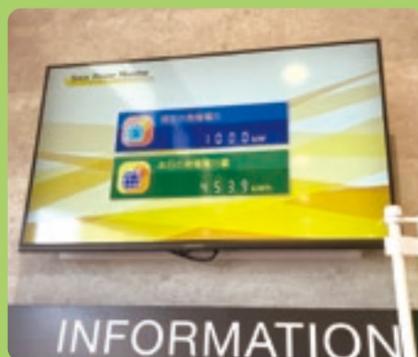
「買物袋持参運動」を知り、楽しんで参加いただくため、「世界にひとつだけのマイバッグ作り」を実施しています。コットンバッグにクレヨンで好きな絵を描いていただき、お買物の際にマイバッグとして使っていただいています。



太陽光発電システム

年間約600tのCO₂を削減

2018年に策定された「イオン 脱炭素ビジョン」に基づき、当社も脱炭素に向けた取り組みを推進しています。2023年度にはPPA（電力販売契約）モデルの導入に向けて準備を進めました。PPA事業者が当社店舗に太陽光発電システムを設置し、発電した電力をPPA事業者から購入するという仕組みです。2024年3月より本社および7店舗にて導入を開始し、年間約600tのCO₂が削減できる見込みです。今後もCO₂削減に向けて導入店舗の拡大を進めてまいります。



エネルギー
自給自足の
実現に向けて。

フロン漏洩防止・自然冷媒設備導入

冷蔵ケースに使用されている代替フロンは地球温暖化係数*が高いため、漏れ出さないように管理を強化する必要があるとともに、地球温暖化係数が極めて低い次世代冷媒である、自然冷媒への転換が求められています。当社は、多くのお客さまと日々接する小売業の使命として、自然冷媒を使用するケースへの切替えに積極的に取り組んでいます。2023年度は63店舗で自然冷媒ケース約600台、省エネルギー対応のリーチインケース約100台、計約700台を入れ替えました。

*地球温暖化係数:CO₂の何倍の温室効果を有するかを表す値



物流

商品を店舗に運ぶ物流分野においても、環境負荷低減や働き方の見直しに対し、当社も対策を進めました。常温・低温商品の混載を実施するなどしてトラックの積載効率を高め、加えて配送体制の見直しを行うことで配送台数を削減することに成功しています。配送体制の見直しにより、年間換算で約311万kmの走行距離短縮を実現しました。店舗に商品が早く届いたり、荷下ろしの負荷が軽減されるといったメリットにもつながっています。



木造建築

木造店舗でCO₂排出量削減に貢献

マックスバリュエクスプレス小山須走店は当社として初めての木造平屋建ての店舗で、環境に配慮したサステナブルな店舗を目指しています。木は成長の過程でCO₂を吸収する、環境負荷の少ない素材であり、鉄骨造と比べるとCO₂の排出量を削減できます。また、木のぬくもりを感じていただける店内となっており、気持ちよくお買物をしていただける空間を提供してまいります。2023年度はマックスバリュエクスプレス小山須走店およびマックスバリュエクスプレス天竜春野町店の2店舗を木造にて建築しました。

木造
平屋建て
店舗

2023年7月開店
マックスバリュエクスプレス小山須走店
(静岡県駿東郡小山町)

2023年12月開店
マックスバリュエクスプレス天竜春野町店
(浜松市天竜区)



マックスバリュエクスプレス小山須走店



マックスバリュエクスプレス天竜春野町店



地域の「おいしい」
「ありがとう」
創造への挑戦

地域にとっての「おいしい」という視点を重視し、期待以上の取り組みで、地域に「おいしい」と「ありがとう」を生みだし続けます。



フレッシュマトのワンボットパスタ



ガーリック香る牛肉のトマトソースパスタ



九州名物旨味たっぷりのがめ煮



焼き明太でアレンジちゃんぽん

おいしさの追求。



お客さまに健康でいきいきとした生活を送っていただくため、バランスの良い食事、すなわち「ちゃんごはんを食べる」ことを知っていただく機会として、健康的な食生活のご提案や、食事バランスを考慮したお弁当・お惣菜の紹介などに取り組んでいます。地元大学生、高校生、行政との共同開発など産官学連携にも取り組み、多様化するニーズに対し健康で豊かな食の提案を行うとともに、地域活性化の推進を図っています。



かぼけっと



ウツまみ



宇治山田商業高等学校 (三重県)

毎日の食事を楽しく ちゃんごはんレシピ

タラモサラダのオープンサンドイッチ



「ちゃんごはん」とはお客さまにおいしい食卓を提供することを通して、お客さまの健康的な生活や健康づくりに貢献するさまざまな活動のことです。その活動のひとつ「ちゃんごはんレシピ」では毎日の食卓をより楽しんでいただくために、旬の食材のおいしさ、季節の歳時を感じられる料理、栄養バランスを考慮したレシピなどを紹介しています。

ちゃんごはんSTUDIO

「ちゃんごはんSTUDIO」は、当社の売場に隣接するキッチンスタジオです。旬の食材やお勧めの商品をおいしく健康的に食べていただけるように料理教室やセミナーを実施しています。

ちゃんごはんSTUDIO設置店舗

- マックスパリュグランド千種若宮大通店
- マックスパリュ沼津南店
- マックスパリュ浜松助信店



キッチンSTUDIOのほか、「ちゃんごはんONLINESTUDIO」(マックスパリュ東海公式YouTubeチャンネル)では、皆さまの食に対するお悩みやご相談にお応えしたり、旬の食材などを活用したおすすめレシピを紹介しています。



マーケティング部
ちゃんごはん
推進グループマネージャー
もりにし ゆうこ
森西 祐子

最新のおすすめレシピはこちらから
<https://www.mv-tokai.co.jp/recipe-search/>



大学生との共同開発弁当



鈴華御膳 韓国風弁当



鈴鹿医療科学大学



うまいら静岡! ちゃんご食べコ弁当



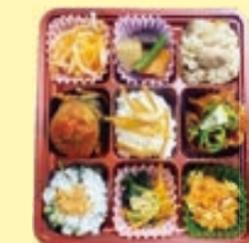
常葉大学



コレ食べときゃ〜! からだごほひ弁当



東海学園大学



三代目 生彩弁当



東海学院大学

じもの 取材レポート

葉酸たっぷりのリーフを毎日元気に出荷しています。

私たちはグリーンホウレンソウやシュンギク、コマツナ、ルッコラなど約20種類の野菜の幼葉を栽培しています。通年栽培が可能で、春夏なら種まきから1カ月かからず、ふわふわのやわらかい葉になります。その一つひとつを手摘みし、バランス良くミックスして出荷。化学農業を使わず安心安全なのはもちろん、土づくりをして土耕で栽培しています。栄養価が高く、特にビタミンの一種

「葉酸」が豊富に含まれていることを定期的な測定で確認しています。私たちの農場では障がいの有無や年齢に関係なく、毎日みんないきいきと働いています。その笑顔パワーのもとで元気に育つ「葉酸リッチリーフ」。今では身近な店頭に並び、たくさんの消費者の目に触れられる機会が増えたことを、仲間とともに本当に嬉しく実感しています。



リッチリーフ

さまざまな種類の葉菜類の赤ちゃんを、最も栄養価の高い時期に収穫し、ミックスしたサラダ野菜。「リッチリーフ」は、浜松ホトアグリが商標登録している商品名です。



株式会社浜松ホトアグリ
静岡県浜松市浜名区都田町
<https://www.photo-agri.com/>

じもの商品大商談会

地元で長年親しまれている商品や、地元で生産されている商品など「じもの」の拡充のため、2014年より「じもの商品大商談会」を開催しています。店舗のコミュニティ社員を中心とした店舗従業員が、出展企業の担当者さまから商品の説明を受け、自店で展開する商品を選定します。地域特性をよく知るコミュニティ社員の意見を商品導入に反映させることで、より地域に根ざした品揃えの実現を目指しています。2023年度は10月に開催し、約350社、約2,400品のじもの商品が集結し、約1,200人の従業員が参加しました。



株式会社浜松ホトアグリ
やまだ まゆこ
山田 万祐子さん
さまざまな種類の葉菜類の幼葉「葉酸リッチリーフ」を主力商品に栽培する、1,300坪のハウス農場。従業員21人のうち9人は障がいのあるスタッフで、収穫したあとの土から根を抜く作業で活躍している。

地元の良いものを 地域の皆さまへ 届けたい。

地域に根ざした商品「じもの」

それぞれの地域に根ざした商品を「じもの」と呼び、じもの商品の販売活動を通じて、地域の活性化を応援しています。地域ならではの食材や食文化は、その土地のかけがえのない宝物です。当社では、じもの商品の販売やレシピ提案、あるいは地元のお店とのコラボによる商品開発など、多角的な取り組みを実施しています。

地域ならではの
食材や食文化

じもの

柑橘類

みかんを中心にレモンや夏みかん、すだちなど10種類ほどの柑橘類を季節ごとに出荷しています。どれも果肉がしっかりといてみずみずしく、濃厚な味わいが特徴です。



柑橘のさわやかな香り フレッシュな恵みをお届け

私たちの畑は日照量の豊富さと肥よくな土壌で有名な浜松市の三方原台地や都田周辺の山にあります。毎年、お盆の頃からすだち、秋は早生みかん、正月明けからレモンや金柑、夏みかん、甘夏、グレープフルーツなどを収穫しています。規模は大きくありませんが、玉ねぎやインゲン、さつまいも、菜の花、じゃがいもなどの野菜も出荷しています。

この地域でも、高齢化と後継者不足の問題から農家は減少しています。私たちの農園では主婦や高齢者の働く仲間を少しずつ増やし、その分、休耕地を借りて農産物を作っています。一年を通して、身近なスーパーに安定して出荷できることは、次世代に畑をつなぐ私たちの活動の大きな支えになっています。



有限会社たちばなファーム
いわい ひろき
若井 宏樹さん

柑橘類を中心に野菜や果物を栽培するほか、市内の生産者3軒からの農産物を卸販売する。「生産者にやさしい栽培方法」を意識することで、安全安心な農産物を提供。新規就農者の育成をサポートしている。



たちばなファーム
静岡県浜松市中央区根洗町
<https://www.tachibanafarm.co.jp/>



時間・場所に 捉われない 価値提供の実現。



いつもの
顔ぶれに
安心します



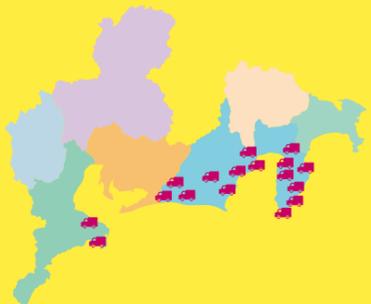
春野地域担当ドライバー
ささき アキ

待っていてくれるお客さまとのやり取りが楽しく、「助かるよ!」とってもらえるこの仕事のやりがいは大きいです。買い忘れがないようにと思い、『牛乳はまだある? 卵は大丈夫?』って、つい声をかけてしまいますね。

「助かるよ」の声に支えられて地域の笑顔と健やかな暮らしを守る

移動スーパー

「わたしの近くまで運ぶスーパーマーケット」をコンセプトに、2022年4月、浜松市天竜区で移動スーパー1号車がスタートしました。約500品目を専用トラックに積み込み、各駐車場所にて店舗と同じクオリティの商品を販売しています。お買物に不便を感じている地域の皆さまに「実際に手に取って選ぶ、お買物の楽しさ」を届けるだけでなく、駐車場所はご近所さんの「コミュニケーションの場」としても機能しています。



早朝、店舗の商品をトラックに積み込み、野菜や果物の他に、お肉、お刺身、お惣菜などが並ぶ。

VOICE [地域の声]

ドライバーさんとの会話も買物の楽しみです。

何か用事がない限り、町に出掛けることはないですから、毎週来てくれる移動スーパーを便利に利用しています。あれこれ選ぶ楽しさもあって、思わずいろいろ買っちゃいますね。ここでの会話も楽しみ。



買物に行く足がないので来てくれるのが本当に助かる。

自分で買物に行く足がないので、週1回でも移動スーパーが来てくれるのは助かります。孫のおやつに揚げ物を買います。おかずになるお惣菜もあるので、食卓も賑やかになりますね。



ご近所さんとの井戸端会議もいい気分転換になります。

移動スーパーは実際に商品を見て買物できるのが嬉しいです。毎週同じ時間、駐車場所に来ればご近所さんにも会えます。いつも冗談を言い合っていて、買物を楽しんで、ここでの時間も楽しみなんですよ。



移動スーパーは、決まった曜日に点在する集落を巡回。待っていてくれるお客さまもいて、トラックの扉を開けるドライバーも笑顔があふれます。



2023年度は11台の運行を開始し、静岡県・三重県に17台の移動スーパーが運行しています。



Maxマート

Maxマート

新たな店舗の形として、無人店舗「Maxマート」を展開しています。主に企業のオフィス内に出店し、取り扱う商品をご要望に応じて変更しています。休憩時間や昼食時にご使用いただいております。オフィスに出勤する従業員の皆さまの職場環境をより快適にするお手伝いをしています。

2023年度には38店舗を新たに開設し、47店舗に拡大しました。



Uber Eats

Uber Eats

「Uber Eats」を利用した店舗商品配達を実施しています。ご注文から平均30分程度*で店舗の商品をお客さまへお届けします。お弁当・お惣菜などの即食商品をはじめ、生鮮食品、日用雑貨、ペットフードなど、食品スーパーマーケットで取り扱う多種多様な商品をご提供し、新しい生活様式のニーズに対応していきます。

2023年度は39拠点を新たに開設し、60拠点まで拡大しました。

*店舗により取り扱う商品が異なります。*天候、その他の要因により、到着時間は変動します。





私に 「うれしい」 店づくり

お客さま一人ひとりにとっての
「うれしいお店」を追求し続けます。

誰もが便利なお店づくり。

見守り協定

買物にご不便を感じている高齢者などの生活支援と地域の見守り活動の推進を目的に、地域の見守り活動推進に関する協定を各行政と結んでいます。



認知症サポーター養成講座

認知症の方だけでなく高齢の方、障がいをお持ちの方など、全てのお客さまにやさしい店舗づくりを目指して、従業員の「認知症サポーター養成講座」受講を推進しています。認知症サポーター養成講座は、認知症を正しく理解し、認知症の方やそのご家族に対して、できる範囲で手助けができる「認知症サポーター」を養成するもので、2023年度は1,658人の認知症サポーターを養成しました。



おもいやりレジ

「おもいやりレジ」は、お金の出し入れに時間がかかる方、お子さま連れのご家族、妊娠されている方など、サポートが必要な方が、焦らずゆっくりお会計ができるレジとなります。おもいやりレジを設置することで、お客さまとともに安心してお買物ができるお店づくりを目指します。



※2023年度には滋賀県全6店舗に導入し、三重県および滋賀県、全店舗となる54店舗に導入を完了しました。



お客さまの声

いただいた声から
始まった取り組み。

2023年の一年間でいただいた「お客さまの声」は約78,000件。お問い合わせやご要望のほか、時には厳しいお叱りの声をいただくこともあります。私たちは、「お客さまの声」を一つひとつ真剣にお伺いし、誠実に対応することを常に心がけています。お客さまからいただいた、多くのご意見やご要望が、店舗運営の改善や新たな取り組みの創出にもつながっています。

体にやさしい
食品がわかりにくい

特設売場を
設置しました

オーガニック食品をはじめ、腸内環境を整える食品、減塩や糖質オフの食品などを集めた特設売場を設置しました。

マックスバリュ江南布袋店
(愛知県江南市)



アプリやクーポンを
使ってみたい

ご相談カウンターを
設けました

アプリのダウンロード、会員登録、クーポンの使い方まで気軽にご相談いただけるカウンターを設置しました。

マックスバリュ沼津南店
(静岡県沼津市)



近くに
店舗がなくて不便です

移動スーパーを
はじめました

商品を直接手に取って選ぶ「お買物の楽しさ」とお客さまが定期的に集う「コミュニケーションの場」をご提供するため移動スーパーの運行を開始しました。

マックスバリュ富士宮朝日町店
(静岡県富士宮市)

Voice





防災協定の締結

Maxvalu × 自治体

当社の店舗が所在する市町に対し、災害時における緊急支援物資の提供などを約束する、防災に関する協定締結のはたらきかけとともに、既に締結している市町にはその再確認を進めています。災害の発生時、または発生する恐れのある場合において、市町からの要請に基づき、物資の支援を優先的に協力することを目的とし、災害に対する備えの整備とともに、安心できる店舗運営を目指しています。2023年度は新たに5市と防災協定を締結しました。

詳細はP.34へ▶



防災 災害時でも 安心できる 取り組み。



福島ひまわり里親プロジェクト

復興のシンボル
「ひまわり」で福島を元気に。

2011年3月に発生した東日本大震災のあと、「福島県に『復興のシンボル』としてひまわりを植えよう」をテーマに始まった活動です。全国各地で「里親さん」が育てたひまわりを復興のシンボルとして福島県で咲かせることによって雇用・教育・観光につなげ、福島県との絆を深めるプロジェクトです。2023年度は892名の当社従業員が里親さんとなり、50.3kgのひまわりの種を収穫し、「NPO法人チームふくしま」さまに寄贈しました。

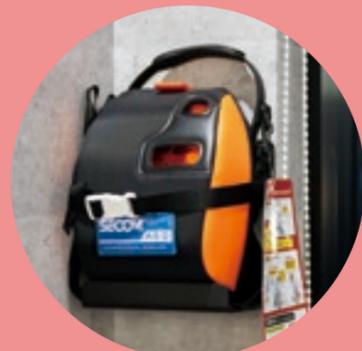


防災の取り組み

マックスバリュ鳩岡店(名古屋市北区)では、名古屋市消防局からの要請に基づき、2024年1月1日に発生した能登半島地震の被災地に派遣された緊急救助隊への食料調達の協力をさせていただきました。震災直後ということもあり、被災地の状況によって流動的な対応が必要となりましたが、関係部署と連携を図り、無事に物資供給ができました。人命救助を最優先した迅速な対応が評価され、名古屋市消防局長より感謝状をいただきました。被災地の皆さまの安全と、一日も早い復興を心より願っております。



従業員が行う防災訓練



店内に設置されたAED

Voice

東日本大震災から13年。家族と連絡が取れず安否確認が遅れたこと。停電や断水・電波障害でライフラインが使えなくなってしまったこと。福島第一原子力発電所の事故による放射性物質への恐怖など今でも鮮明に覚えています。とにかく不安な気持ちでいっぱいだったとき、全国各地の「ひまわり里親さん」が被災地に心を寄せてひまわりを育ててくださっていると知り心が救われました。この度、マックスバリュ東海さまより寄贈いただいたひまわりの種は福島県内各地に配布させていただきます。今年の夏も福島県各地でひまわりの花が咲き笑顔があふれ絆が深まります。マックスバリュ東海の皆さまへは感謝の気持ちいっぱいです。ありがとうございました。



NPO法人チームふくしま
はせくら ふみえ
理事 支倉 文江様

もしもに備える BuddyBox

災害時の非常食として3日分の食品を箱詰めした「BuddyBox(バディーボックス)」の定期宅配サービスに参画しています。購入後半年間は備蓄でき、次の分が届いたら、食べて消費する「ローリングストック」の考え方をもとに、定期的に備蓄食をお届けするサービスです。



BuddyBox(備蓄食セット)
水あり…5,950円(税別)[6,426円(税込)]+送料
水なし…5,500円(税別)[5,940円(税込)]+送料
お申し込みURL: <https://shop.at-s.com/collections/buddybox/>

備蓄食を普段のおかずに取り入れられるよう、「ちゃんとごはんレシピ」にて活用する方法も紹介しています。

非常食 レシピ

備蓄用の食材を使って
普段のおかずを作れる



いわしと春キャベツの
レンジ蒸し

「いわしのみそ煮」を使って
<https://www.mv-tokai.co.jp/recipe/78209/>



コーンクリーム
パスタ

「コーンポタージュ」を使って
<https://www.mv-tokai.co.jp/recipe/67173/>



野菜のもち麦入り
ミートソースチーズ焼き

「もち麦」を使って
<https://www.mv-tokai.co.jp/recipe/67167/>



個性や能力を発揮したい従業員の想いを尊重し、
応援できる組織づくりを実現します。

「やりたい」
「ありがたい」を
応援する
組織づくり



Q

どのような
未来を目指して
いますか？

260店舗
2026年度目標

東海エリアNo.1の
フードサービス業へ。

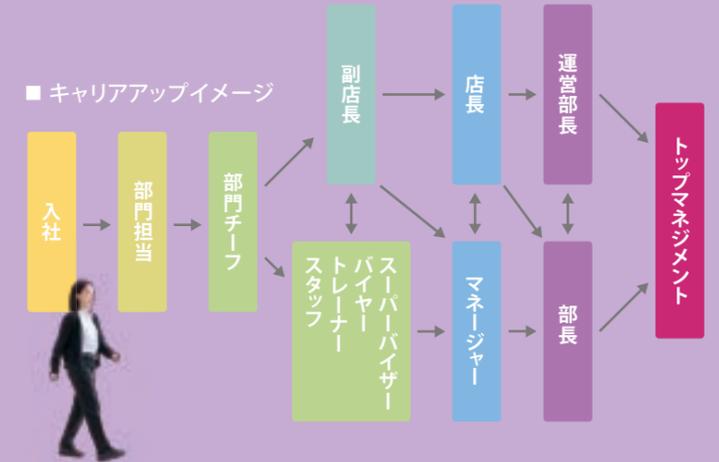
4,200億円
2026年度目標

当社は、2026年度に260店舗・営業収益4,200億円という大きな目標を掲げています。それは、「お客さまの視点で、より良い商品を納得いく価格で提供する」という小売業の使命を果たすためには、「規模のメリット」を追求することも必要だからです。そして、成長戦略を推進するうえで欠かせないのは、そこで活躍する従業員一人ひとりの成長であると考えています。

目標を達成するための一番の近道は、
従業員一人ひとりが個性や適性を活かして
自分らしく活躍できる環境づくり。

スキルアップを 全力で応援

入社後は、全員に店舗での勤務を経験してもらい、商品知識や店舗運営の基礎知識やノウハウを身につけていただきます。その後は、希望や能力・適性に応じて、副店長・店長など店舗でのキャリアアップや、本社スタッフ（商品部、営業企画、店舗開発、人事、総務、財務、経営企画など）を目指すこともできます。



新入社員研修

2023年度の新入社員研修は浜松市天竜区熊地区にて「NPO法人夢未来くんま」さまの協力のもと実施しました。地域の社会課題に対して、ボランティア活動を通してその解決に取り組み、サステナブルな考えを学びました。地域に密着した価値観を持つ人材を育成し、地域視点を持った店舗づくりに活かしていきます。



次世代人材の育成

中核的役職である店長と、その次席者である副店長の育成強化に取り組んでいます。外部講師による戦略立案や市場分析の基礎知識の講座の機会を提供するなど、次世代を担う総合的な人材の育成をしています。



ブラザー・シスター制度

新入社員のフォローアップを目的に「ブラザー・シスター制度」を導入しています。新社員一人に対して、年齢の近い先輩社員一人が担当となり、月に一度の面談を中心に、メンタル面のフォローなどを行います。新社員に寄り添う姿勢で相談しやすい体制を整えることで、業務上での不安を早い段階で払拭できるよう配慮しています。

→ 専門教育

安心して勤められる
職場を目指して

ワーク・ライフ・ バランスの向上



従業員が自身のワーク・ライフ・バランスを考える機会として、「キャリアデザイン研修」を実施しています。およそ5年に一度、近い世代の従業員を集め、自分の生活や仕事について考えてもらい、将来なりたい姿のイメージを持つ機会としています。自分を振り返ることで従業員一人ひとりのチャレンジにもつながっています。

現職 強化教育



副店長・後方総務担当・夜間業務管理者等への実務的な内容で教育プログラムを組み立て、職場の課題抽出や意見交換の機会として活用しているほか、DXを主題とした教育を実施し、ITリテラシーの向上による管理体制の強化に努めています。

充実の福利厚生

従業員、家族。すべてが幸せになる企業を目指して。

当社は福利厚生の充実を図っています。大切にしているのは、従業員だけでなく、その家族まで考えた制度をつくることです。日々の暮らしを支え、やりがいがある毎日を送るためには、仕事以外のプライベートの時間も充実させるということが大切であり、性別、年齢にかかわらず、長く、安心して働ける会社の実現を目指しています。

育児休職制度	介護休職制度	社宅制度	従業員割引制度
復職制度 (リ・エントリー制度)		自己申告制度 (年一回)	

育児休職 Hさん(男性)の一例

Q1 育児休職取得期間を教えてください。

妻の2回目の出産時に2023年9月～11月の3カ月間取得しました。双子の出産だったので、出産後は体調の回復に時間がかかることがわかっていましたし、出産前にも妻は管理入院が必要でした。出産前の働き方も含めて上司とも相談のうえ、3カ月間の取得に決めました。

Q2 育児休職を取得し、良かったと思ったことはありますか？

一人目のときは、新生児期に育児を任せきりになり妻から大変さだけ聞いていました。今回は上の子と、生まれてきた双子の育児を経験しました。育児の大変さを身に染みて理解できたことで、育児休職明けも妻と協力して育児に取り組んでいるのは良かったと思っています。

Q3 育児休職を取得しようか悩んでいる方、これから取得しようとしている方に向けて、ご意見はありますか？

育児休職を取得することで、家族と育児の考え方を話し合う機会が増えます。それが、今後の家庭内相互理解、プライベートの充実につながると思いますので、取得を考えているのであれば、同僚や職場の上司、人事教育部などに相談してみてください。当社には育児を応援する制度・仕組みがあるので、活用してライフワークも充実させることが可能です。

育児休職取得率 詳細はP34へ▶

技術教育制度

商品化技術を磨き
お客さまにおいしさをご提供。

社内認定基準に基づき、技術レベル向上と認定級取得者の育成を進めています。新規認定者に重点を置き、商品化レベルの引き上げや、動画学習を取り入れた技術者育成を重点的に実施しています。毎年技術認定試験に取り組み、商品化技術の向上に務めております。

■ 2023年度 技術認定取得者数

合計 **982**人 詳細はP34へ▶



誰もが活躍できる 会社を目指して

店長などをめざす女性従業員を対象とした「なでしこ勉強会」を実施。店舗運営に関する考え方や、数値管理など、管理者育成に向けたカリキュラムに取り組んでいます。女性従業員にもステップアップをイメージして働いていただける、多様性のある企業風土の醸成に努めています。

従業員と家族の健康を サポート

当社は従業員一人ひとりの会社・家庭・地域生活がいつでも充実できることを目指し、健康経営を推進しています。特定保健指導の受診勧奨や「健康チャレンジキャンペーン」への参加を促進し、従業員の健康リテラシー向上に努めています。また「健康・心の相談窓口」を創設。リモート面談ができるよう整備し、体調・メンタルなどの不安を気軽に相談することができます。心身ともに健康であり続ける健康経営の重要性の認識を高めています。

人に関わる数字 [2023年度実績]

年間休日 最大 125 日	有給休暇取得日数 8.8 日/人	育休取得者 女性 56 人 男性 14 人
平均残業時間 月平均 13.8 時間	入社3年未満の離職率 13.8 %	障がい者雇用 225 人

詳細はP34へ▶





地域や人との 「つながり」を広げ 深めるデジタルとの共存

地域や人とのつながりを大切にしながら、
先進技術の活用による新たなサービス
を提供していきます。



● Application

iAEON

イオンのトータルアプリ「iAEON」では、会員コードでポイントを貯めたり、「AEON Pay」でお支払いをしたり、スマートフォンひとつでお買物や生活がもっと便利になります。ぜひ最寄りの店舗を「お気に入り店舗」に登録いただき、お得な情報をゲットしてください。



セルフレジ

レジ精算の利便性向上や、レジ業務の効率化に向けて、キャッシュレスセルフレジの導入を進めています。レジの待ち時間短縮や、さまざまな決済方法への対応の実現につながっています。また、効率化を通じて接客業務の質的な向上を図るなど、お客さまに寄り添った店舗づくりにもつなげています。2023年度にはキャッシュレスセルフレジを79店舗に導入し、合計230店舗に拡大しました。



● Self-checkout

未来に向けた付加価値の創出。

製造工場でのロボット化推進



社会課題である人手不足は惣菜工場も深刻。課題解決に向け、2021年に長泉工場の惣菜製造ラインをステージに、盛付ロボット導入に向けロボット開発企業とともにoneチームでチャレンジ。これまで実現不可能とされてきたロボット化が惣菜盛付ラインで成功。2023年はさらに惣菜盛付ロボットとガス置換包装機を連結させ、さらにおいしく且つ消費期限延長へのチャレンジ。見事成功し、売上向上やフードロス削減の効果を実現しています。今後も持続的に課題解決に向け努めていきたいと考えています。

執行役員 商品本部デリカ商品統括部長
兼ダイバーシティ推進室長
えんどう まゆみ
遠藤 真由美



● Robot

● Weather forecast

気象予測を活用した自動発注システム



2023年11月より、気象データを活用した生鮮食品の自動発注支援サービスを全店舗の農産部門に導入しました。「気象データ」「販売データ」「歳時記データ」などから発注推奨数が提示され、発注業務の負担軽減を図っています。生産性の向上とともに、より鮮度の高い商品提供、気温に合わせた商品提案など細かなお客さまのニーズにお応えし、お客さま満足度の向上に努めています。

Data

データ集

当社は、企業理念・行動指針に基づき、豊かで持続可能な地域(社会)の実現と、当社グループの持続的な成長の両立を目指し、サステナビリティ基本方針を策定するとともに、サステナビリティに関するマテリアリティ(重要課題)を特定しました。

マックスバリュ東海のサステナビリティ ～基本方針(価値創造ストーリー)～

想いをつなぎ、一途に「かたち」に。

マックスバリュ東海は、「笑顔」と「元気」、「幸せ」あふれる地域を共創します。

私たちは、2030年、そしてその先の2050年を見据えた価値創造ストーリーを策定しました。ここには、これまで、これからも変わらず、地域とつながり、地域とともにあゆみ、事業を通じて豊かで幸せな暮らしの実現と地域づくりに貢献し続ける存在でありたい、という想いを込めました。この想いを形にするために、企業理念、行動指針に基づき、ブランドメッセージである、『想いを形に、「おいしい」でつながる。』を体現し続けます。

サステナビリティのマテリアリティ (重要課題)

<p>Materiality</p> <p>01</p> <p>「笑顔」と「元気」、 「幸せ」あふれる 地域の共創</p>	<p>Materiality</p> <p>02</p> <p>「もったいない ゼロ社会」 の実現</p>	<p>Materiality</p> <p>03</p> <p>地域の「おいしい」 「ありがとう」 創造への挑戦</p>
<p>Materiality</p> <p>04</p> <p>私に 「うれしい」 店づくり</p>	<p>Materiality</p> <p>05</p> <p>「やりたい」 「ありがたい」を応援する 組織づくり</p>	<p>Materiality</p> <p>06</p> <p>地域や人との 「つながり」を広げ深める デジタルとの共存</p>

事業を通じて解決したい社会・環境の重要課題(マテリアリティ)を特定しました。これは、経営、従業員が自分の想いを伝えあい、わかちあい「持続可能な地域(社会)の実現」のために何をすべきかを考え抜いて導き出したものです。私たちマックスバリュ東海は、これらの解決を通じて、「持続可能な地域(社会)の実現」に貢献し続けます。

KGI (重要目標達成指標)

地域に生まれた「ありがとう」の総量

マックスバリュ東海は、地域とのつながりを通じて、「ありがとう」を生みだし続けます。

私たちは、事業を通じた日々の関わりあいの中におけるつながりの一つひとつから「ありがとう」が生まれるものと考えます。そして、この「ありがとう」の総量の追求により、「笑顔」と「元気」、「幸せ」あふれる地域の共創に貢献し続けます。

※ お客さま、従業員、お取引先さま、株主さまとのつながりの一つひとつから生まれる「ありがとう」の総量を独自基準で集計するもの。

P12/ありがとうキャンペーン寄付実績 (単位:円)

キャンペーン名	寄付先	2022年度	2023年度
「三重県ありがとう」キャンペーン	三重とこわか健康マイレージ事業	2,123,343	2,523,992
「愛知県ありがとう」キャンペーン	愛知県環境保全基金	1,812,187	2,207,784
「富士山ありがとう」キャンペーン	静岡県富士山後世継承基金	5,000,000	5,000,000
合計		8,935,530	9,731,776

P12/WAON寄付実績 (単位:円)

WAON名	寄付先	2022年度	2023年度
やまなし富士山WAON	山梨県富士山世界文化遺産 保存活用推進委員会	2,306,643	2,320,904
しずおか富士山WAON	静岡県富士山後世継承基金	9,116,589	9,753,518
出世城浜松城WAON	浜松市森林環境基金	1,153,829	1,415,085
葦山反射炉WAON	伊豆の国市葦山反射炉保全基金	1,211,153	1,308,607
富士宮やきそばWAON	富士宮市ふじのみや寄附金	557,726	706,898
あいち三英傑WAON	愛知県文化振興基金	1,750,872	1,980,218
防災・減災都市なごやWAON	名古屋市消防・防災事業寄附金	628,674	703,072
伊勢志摩WAON	公益社団法人 伊勢志摩観光コンベンション機構	1,822,546	1,951,381
熊野古道伊勢路WAON	一般社団法人東紀州地域振興公社	1,219,282	1,421,611
合計		19,767,314	21,561,294

募金実績 (単位:円)

募金名称	寄付先	2022年度 募金金額	2023年度 募金金額
イオンウクライナ子ども救援募金	公益財団法人日本ユニセフ協会	6,241,370	—
イオンユニセフ セーフウォーターキャンペーン	公益財団法人日本ユニセフ協会	680,849	894,674
24時間テレビ 「愛は地球を救う」募金	公益社団法人 24時間テレビチャリティー委員会	3,494,151	4,686,179
台風8号による雲見地区等の 災害に関する義援金	静岡県賀茂郡松崎町	135,724	—
令和4年台風第15号 災害静岡県義援金	静岡県	142,039	—
首里城支援募金	一般財団法人 沖縄美ら島財団 首里城基金	708,750	676,952
全国こども食堂応援募金	認定NPO法人 全国こども食堂支援センター・ むすびえ	1,183,406	1,077,636
トルコ南東部地震緊急支援募金	駐日トルコ共和国大使館	2,651,046	—
トルコ・シリア大地震緊急支援募金	公益財団法人日本ユニセフ協会	1,275,880	—
令和6年能登半島地震 緊急支援募金	石川県、富山県、新潟県	—	8,472,232
緑の募金(三重県)	公益社団法人 三重県緑化推進協会	417,737	526,921
緑の募金(滋賀県)	公益財団法人 滋賀県緑化推進会	82,360	69,203
緑の募金(岐阜県)	公益社団法人 岐阜県緑化推進委員会	68,766	100,492
緑の募金(愛知県)	公益社団法人 愛知県緑化推進委員会	570,059	768,762
富士山環境保全活動 支援募金(静岡県)	ふじさんネットワーク (事務局:静岡県くらし・ 環境部環境局自然保護課 富士山・南アルプス保全班)	539,653	929,235
富士山環境保全活動 支援募金(山梨県)	富士山憲章山梨県推進会議 (富士山ボランティアセンター)	81,466	191,206
葦山反射炉保全活動支援募金	伊豆の国市「葦山反射炉保全基金」	386,266	201,299
合計		18,659,522	18,594,791

P14/店頭リサイクル回収実績 (単位:kg)

リサイクル品	2022年度 回収実績	2023年度 回収実績
紙パック	461,691	451,558
アルミ缶	845,660	849,772
ペットボトル	1,898,145	1,939,909
食品トレー・透明トレー	743,177	778,492

P17~18/共同開発商品数 (単位:個)

共同開発先	2022年度共同開発数	2023年度共同開発数
高等学校	5	3
大学	6	4
行政	1	1
合計	12	7

P21~22/ノンストア事業導入数

	2022年度	2023年度
ネットスーパー	26拠点	26拠点
移動スーパー	6台運行	17台運行
Maxマート	9店舗	47店舗
Uber Eats	21拠点	60拠点

P25/防災協定の締結状況

県	締結状況	市/町
三重県	いなべ市/四日市市/鈴鹿市/伊賀市/亀山市/桑名市/松阪市/名張市/志摩市/多気町/川越町/菟野町	9市/3町
愛知県	小牧市/長久手市/東海市/知多市/岡崎市/江南市/豊橋市/大府市/西尾市/津島市/幸田町/扶桑町	10市/2町
岐阜県	各務原市/瑞穂市/大垣市/岐南町/養老町	3市/2町
静岡県	三島市/沼津市/熱海市/富士市/島田市/伊豆の国市/下田市/裾野市/伊豆市/伊東市/御殿場市/静岡市/御前崎市/磐田市/富士宮市/浜松市/長泉町/南伊豆町/東伊豆町/清水町/松崎町/函南町	16市/6町
神奈川県	平塚市/秦野市/厚木市/寒川町/湯河原町/開成町	3市/3町
山梨県	富士河口湖町	1町
合計		41市/17町

2023年は大垣市、湖西市、浜松市、厚木市、江南市、名古屋市(学区)と締結

P26/福島ひまわり里親プロジェクト実績

	2022年度	2023年度
参加従業員数(人)	873	892
収穫したひまわりの種(kg)	47.7	50.3

P30/育児休職取得状況 (単位:%・人)

	2022年度		2023年度	
	育児休職取得率	育児休職取得者数	育児休職取得率	育児休職取得者数
男性	30.3	10	53.8	14
女性	100.0	49	100.0	56

P30/技術認定取得者数 (単位:人)

	2022年度				2023年度			
	1級	2級	3級	合計	1級	2級	3級	合計
水産	55	133	176	364	79	144	130	353
畜産	43	42	113	198	54	51	87	192
デリカ	68	100	238	406	99	128	186	413
ベーカリー	—	18	46	64	—	9	15	24

P30/障がい者雇用状況 (単位:%・人)

	2022年度	2023年度
雇用数(期末現在)	210	225
採用数	15	13
法定雇用率	3.1	3.2

※2023年度のデータ報告期間は2023年3月~2024年2月です。